

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日

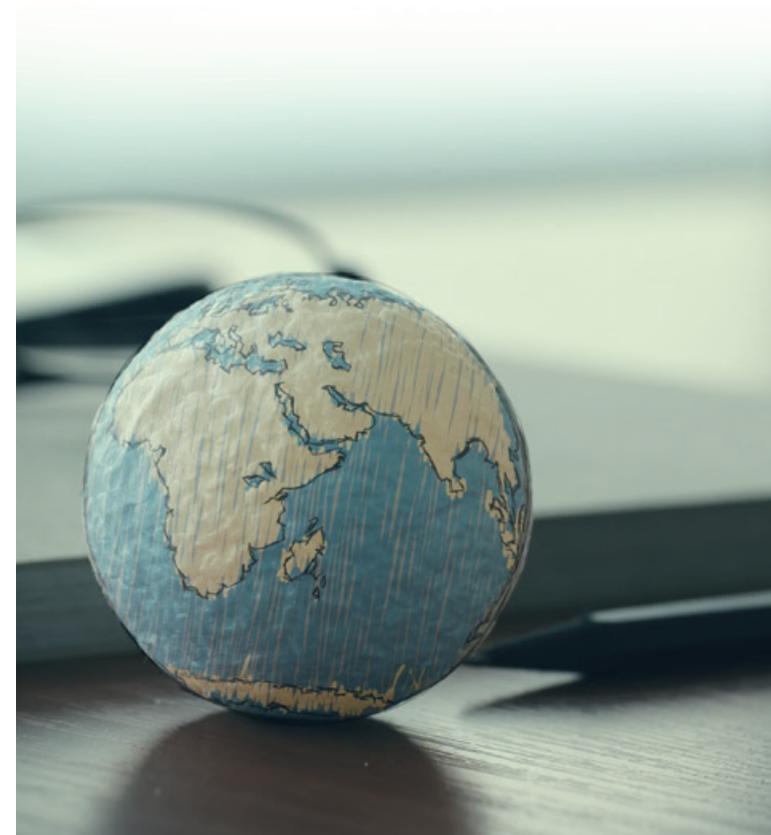
公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
 できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Interim Business Report

第113期 中間報告書

2023年4月1日～2023年9月30日



To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社第113期中間期（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の営業概況等につきご報告申し上げます。

2023年12月

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、経済活動の正常化は進んだものの、依然として円安による原材料価格、エネルギー価格の高騰に伴う物価上昇は継続しており引き続き予断を許さない状況が続くものと思われま

す。海外経済におきましても長期化するウクライナ情勢の問題、世界的な金融引き締め政策による景気への影響が懸念されており、今後も先行き不透明な状況で推移するものと思われま

す。このような環境の下、当第2四半期連結累計期間の売上高は262億71百万円（前年同期比2.9%増）となり、営業利益は5億13百万円（同130.9%増）、経常利益は7億66百万円（同115.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億74百万円（同180.3%増）となりました。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **加藤 大輔**

Financial Highlights

連結財務ハイライト

売上高

(単位：百万円)



営業利益又は営業損失

(単位：百万円)



経常利益又は経常損失

(単位：百万円)



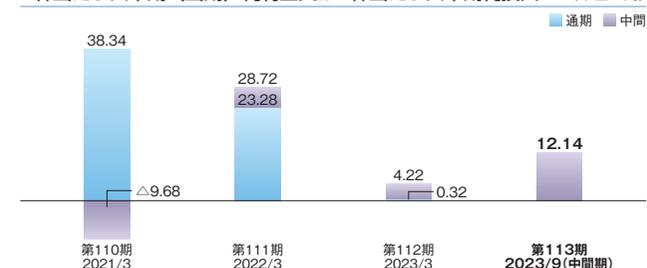
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失

(単位：百万円)



1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失

(単位：円)



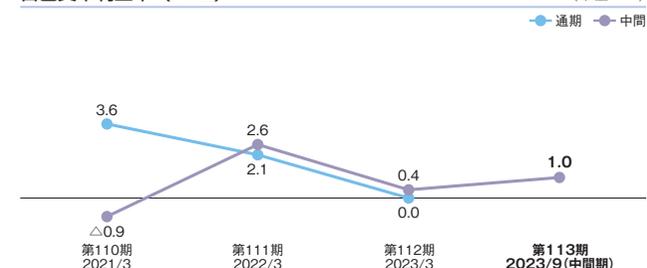
1株当たり純資産額

(単位：円)



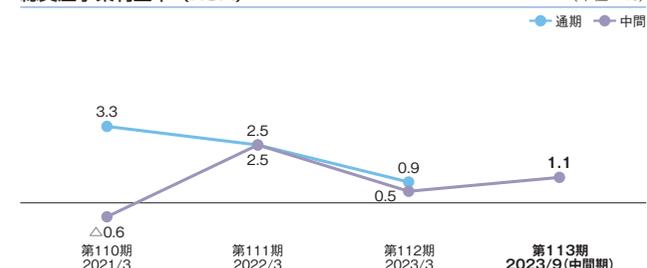
自己資本利益率 (ROE)

(単位：%)



総資産事業利益率 (ROA)

(単位：%)



Segment Review

(単位：百万円)

コーティング事業



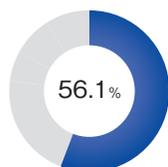
主要分野

自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
化粧品容器関連分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野

主力の自動車向け塗料の販売は、国内では自動車生産台数の回復などもあり、堅調に推移いたしました。海外では北米及びアセアン諸国での需要が堅調だった一方、中国市場では電気自動車の急速な普及により、日系メーカーの販売が苦戦した影響などもあり低調に推移いたしました。

自動車以外の分野では化粧品容器、ホビー用塗料の販売は堅調に推移いたしました。

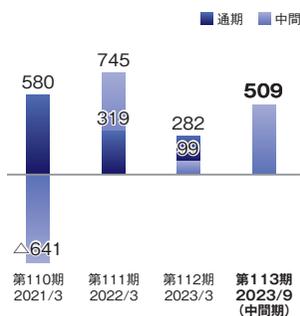
この結果、売上高は147億40百万円（前年同期比12.5%増）となり、営業利益は5億9百万円（同414.7%増）となりました。



売上高構成比

売上高
147億40百万円
(前年同期比12.5%増)

営業利益
5億9百万円
(前年同期比414.7%増)



塗料事業



主要分野

外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野

戸建て新築用塗料の販売は、主要顧客の着工件数の減少が続いており低調な結果となりました。

戸建てリフォーム用塗料の販売も主要顧客の受注減の影響を受けて低調な結果となりました。

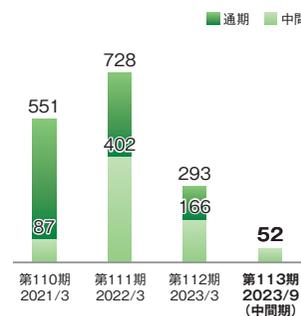
この結果、売上高は55億25百万円（同6.7%減）となり、営業利益は52百万円（同68.7%減）となりました。



売上高構成比

売上高
55億25百万円
(前年同期比6.7%減)

営業利益
52百万円
(前年同期比68.7%減)



電子材料事業

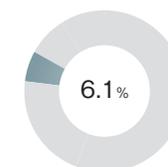


主要分野

通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野

自動車の安全装置などの電子部品・センサー基板の販売は堅調に推移いたしました。一方でPC・スマホ向けの電子部品の需要の低下により、販売が低調に推移いたしました。

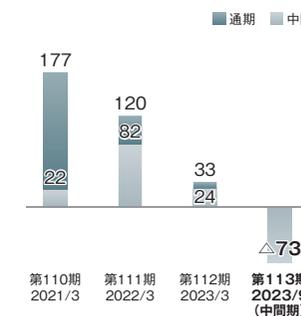
この結果、売上高は16億10百万円（同8.0%減）となり、営業損失は73百万円（前年同期は営業利益24百万円）となりました。



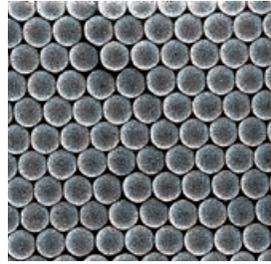
売上高構成比

売上高
16億10百万円
(前年同期比8.0%減)

営業損失
73百万円
(前年同期比-)



化成品事業



主要分野

トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
医療材料分野、
電子部品関連分野

トナー関連材料の販売が低調に推移いたしました。一方で壁紙用粘着剤などの汎用粘着材の販売は好調に推移いたしました。医療材料分野では主力の糖尿病診断薬の販売が海外を中心に堅調に推移いたしました。

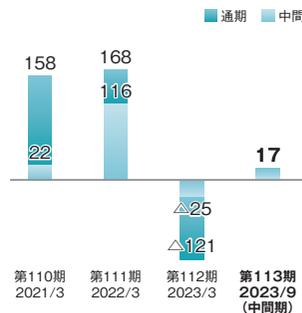
この結果、売上高は20億89百万円（前年同期比3.7%減）となり、営業利益は17百万円（前年同期は営業損失25百万円）となりました。



売上高
20億89百万円
(前年同期比3.7%減)



営業利益
17百万円
(前年同期比 -)



合成樹脂事業



主要分野

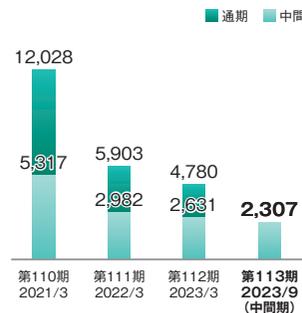
高機能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

液晶テレビ用のレンズキャップの販売が低調に推移いたしました。一方で利益率の高いリチウムイオン電池向け製品の販売が好調に推移いたしました。

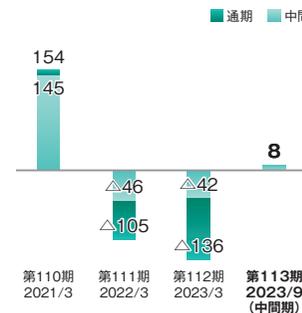
この結果、売上高は23億7百万円（同10.7%減）となり、営業利益は8百万円（前年同期は営業損失42百万円）となりました。



売上高
23億7百万円
(前年同期比10.7%減)



営業利益
8百万円
(前年同期比 -)



会社概要 (2023年9月30日現在)

会社名 藤倉化成株式会社
本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号
本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号
設立 1938年9月22日
資本金 53億5千2百万円
従業員数 連結 1,249名
単体 446名
連結子会社数 国内 4社 海外 15社
ホームページ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (2023年9月30日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株
発行済株式の総数 32,716,878株
株主数 4,611名

TOPIC

東京証券取引所スタンダード市場への移行について

当社は2023年9月11日に開催した取締役会において、東京証券取引所プライム市場からスタンダード市場への移行を決議いたしました。当社はプライム市場上場維持基準のうち、「流通株式時価総額」と「1日平均売買代金」が上場維持基準を満たしておらず、基準適合に向けた取り組みを進めてまいりました。2023年4月1日施行の東京証券取引所の規則改正に伴い、スタンダード市場への上場の再選択の機会を得たことにより、以下の判断から、スタンダード市場への選択申請を行うことを決議いたしました。

- 今後、上場維持基準を満たした場合においても、経済環境や市場環境など外的要因の変化により株価が低迷し、上場維持基準に抵触する可能性も考えられ、株主の皆さまが安心して当社株式を保有・売買できる環境を確保することが重要であると判断いたしました。
- 上場維持基準の充足には更なるコストや労力を要する面もあり、当社の規模を踏まえた上で限られた経営資源を新たな製品の開発、組織人材の活性化に充てることが企業価値の向上に資すると判断いたしました。

なお、スタンダード市場の上場維持基準につきましては、すべての基準に適合しております。今後も持続的な成長を目指し、中期経営計画の達成と企業価値向上に向けた各種施策に取り組んでまいります。株主の皆さまにおかれましてはより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。